



発行：2019年1月25日

# 保健だより 2月号



寒さの厳しい日々が続いています。この寒さの中でも子どもたちは外で霜柱を踏んだり、氷を見つけては歓声をあげ元気に遊んでいます。風邪が流行するこの時期、強い体をつくるために日ごろの生活リズムを整え、元気な毎日をご過ごしましょう。

## 学校が性交を「教えない」弊害

(東京新聞 2018年11月20日(火))

厚生労働省によると、昨年度の二十歳未満の人工妊娠中絶件数は一万四千二百二十八件。昨年一年間に、二十歳未満の母親から生まれた子どもの数九千八百九十八人を上回る。赤ちゃんの生命が奪われる虐待死もなくなる。二〇〇七年から昨年三月までに十代で妊娠した母親から生まれ、虐待死した子どもは百十一人。

最も多いのが生まれたその日に亡くなるケースで、二十五人がトイレやロッカーに遺棄されるなどして命を落とした。

### 知識乏しく望まぬ妊娠や虐待も

にんしん SOS 東京は避妊や思いがけない妊娠などに関する相談を受け付けている。年代別で見ると、十代と二十代の相談がそれぞれ35%ずつになっている。

相談業務を通じて土屋さんが感じるのは、若い世代の性知識の乏しさだ。「下着を着けたまま性器と性器をこすりつけたが妊娠するのではないかと心配」と質問してきたり、生理周期という言葉も排卵の時期に妊娠することも知らない大学生がいたり。

その理由は「学校での性教育が不十分なため」という。現行の中学校の学習指導要領では、生殖能力が備わる思春期の子どもに、排卵や受精の意味を教える一方、「妊娠の経過は取り扱わない」とする「はどめ規定」を設ける。「つまり『性交は教えない』ため、子ども達は性成熟に伴う適切な行動とは何かを具体的に考えられない」と土屋さんは話す。

「教えると性交をかえて助長する」との指摘もあるが、「教えないと、インターネットのアダルトサイトなどで得た誤った性知識のまま、デートDVや望まぬ妊娠など悲惨な結果を招きかねない」。性交や妊娠の仕組みだけでなく、お互いの性的同意、相手への思いやりも含めた人権教育としての性教育の必要性を説く。

### 当園での性教育の取組

「からだと命の大切さを学ぶ～幼児期からの性教育～」を毎年5歳児に対して実施しています。

#### 1. 幼児に性教育を行うと…

- ① ポルノ・アダルトなどからの性情報に触れる前にストレートに正しい知識を伝えることができます
- ② 自分のプライベートゾーンを守る大切さを知ります。
- ③ プライベートなことであるけれど周りの大人に相談したり、不審者がいたら助けを求めてよいことを知ります。
- ④ 命の大切さや、自分の存在の肯定(自尊心)、周りとの共生を学習し、自立へとつなげることができます。

#### 2. 子どものどうして?に答えるポイント

怒らないごまかさないう嘘をつかない  
＝本当のことを教える

#### 3. 幼児期の性教育は「体っていいな」が基本

幼児期であれば、性のことも素直に受け止めることができます。小学校・中学校になってポルノシャワーを浴びる頃になると「性教育はいやらしいもの」として捉えてしまう危険性があります。幼児期に性教育をすると、「ふ～ん、そうなの」で消化でき、「体ってすごいね」「体っていいな」と感じさせることができます。そして、体を大切にします。

## “浮き指”を無くせ！ 裸足教育の効能

本来、人間の体は、足の指がきちんと地面につき、指で踏ん張る力を使ってこそ、正常なバランスが保たれるようになっています。ところが、現代人の足指の力は、極度に衰えています。指の力で踏ん張るところか、多くの人は足指が地面についていない「浮き指」と呼ばれる状態になっています。

兵庫教育大名誉教授 原田碩三の調査(2004年)によると、5歳児で浮き指が1本もない子は全体の8%、つまり、5歳児の90%以上が浮き指になっているのです。



← 創立以来40年間ずっと裸足教育を取り入れている小学校で裸足教育を受けた小学生の足型を御覧ください。

なんと、浮き指発症率は0%! 驚異のデータです。

資料出所：阿久根英昭(桜美林大学健康福祉学群教授)／松野剛(日本ベアフットランニング協会理事長)

### 浮き指と正常な足指

(下の左図は、「足裏の圧力」がわかる足底圧測定器の画像)

**浮き指** 不安定な2点歩行

足指が写っていない。重心がかかかとなり、立つ姿勢は後傾。歩行効率が悪くて疲れやすく、障害が起きやすい

**理想的な足型** 安定した3点歩行(S字歩行)

足指が写っている。かかと、足の裏全体と、足指でバランスよく立っている。障害が起りにくい